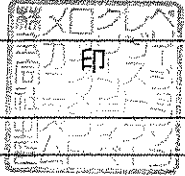


環境省・オフセット・クレジット(J-VER)制度認証委員会  
(事務局: 気候変動対策認証センター) 御中

平成24年2月9日

## 検証結果の概要報告書

検証結果の概要について以下の通り報告いたします。

<b>対象プロジェクト名</b>						
広島食品工業団地協同組合におけるバイオガス利用による化石燃料削減およびメタン放出回避プロジェクト						
<b>GHG 検証機関</b>						
当該プロジェクトにおける検証を行うにあたり、当該プロジェクトに関して一切の利害関係がないことを宣誓します。						
機関名	ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社					
担当部署名	審査・検証部門					
責任者名	松井誉敏					
責任者 E-mail	program@pjrcdm.com					
責任者電話番号	03-5774-9565					
審査員名 <sup>1</sup>	検証チームリーダー: 山崎純 外部専門家: 無 レビュー担当者: 松井誉敏					
機関要件への合致	ISO14065 認定申請を IAF メンバーである認定機関に受理されている。					
検証報告書発行日	2012 年 2 月 8 日					
<b>検証結果</b>						
適用妥当性確認・検証ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)妥当性確認・検証ガイドライン Ver.2.0					
検証期間	2011年10月17日 ~ 2012年2月8日					
現地審査	期間	2011年12月27日 ~ 2011年12月27日				
	審査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初回会議(広島食品工業団地協同組合): 当検証の目的と検証内容、被監査者の役割の確認、重要性の基準、合理的保証水準及びプロジェクトの概要及び変更の有無の確認</li> <li>・ サイトツアー(排水処理施設、株式会社マルバヤシ): 設備とその管理、監視点、計測器とその管理、記録</li> <li>・ 算定結果係わる確認: バイオガス使用量の突合、算定式・パラメータの確認及び検算</li> <li>・ 算定体制、算定プロセス、QA/QCの確認</li> <li>・ 実地検証結果の取りまとめ及び最終会議</li> </ul>				
排出削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012
	t-CO2	-	-	-	882	-

<p>検証結果の要約</p>	<p>ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社(以下、「当社」という)は、本制度において広島食品工業団地協同組合(以下「事業者」という)が計画し、実施した当該プロジェクトについて、事業者が2011年4月1日から2011年11月30日の間に行ったモニタリング結果を記載したモニタリング報告書 Ver.1.0における排出削減量に関する情報について検証を行った。検証手続は、本制度における実施規則 Ver.4.0、モニタリング方法ガイドライン Ver.3.0、方法論 No.E018Ver.2.0を適用基準とし、妥当性確認・検証ガイドライン Ver.2.0 に定められている検証に関する事項に準拠して行った。</p> <p>この検証業務の基準は、業務のリスクを勘案して策定した計画に基づいて、意見表明の基礎となる合理的な保証を得ることを求めている。検証は試査を基礎とし、文書確認及びインタビューを含む現地での確認により行なわれ、モニタリングがモニタリング計画書通りに実施されていることの確認に加え、モニタリング期間中における方法論で規定された適格性基準への適合状態の維持、法令順守、排出削減量の算定方法、データのモニタリング方法、事業者が採用した仮定、その基礎となるデータの評価、モニタリング報告書における記載の検討も含んでいる。これらの手続により、当社は意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。</p> <p>当社は、上記の基準等に基づいた検証の結果、全体の不確かさの計算結果は排出削減量の5%未満であること、重要性の量的基準値5%未満であることを確認し、事業者が作成し、修正したモニタリング報告書Ver.1.1に記載された排出削減量に関する情報について、全ての重要な点において適正であると認め、「無限定適正意見」を表明する。</p>
----------------	--

i 審査担当者、レビュー担当者、外部専門家を含み、それぞれの役割を記載すること。